

## 第 65 回定時株主総会招集ご通知に際しての 法令及び定款に基づくインターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書	P 1
連結計算書類の連結注記表	P 2
株主資本等変動計算書	P 12
計算書類の個別注記表	P 13

株式会社平和堂

本内容は、法令及び当社定款第15条に基づき、インターネット上の当社ホームページ (<http://www.heiwado.jp/>) に掲載しているものです。

## 連結株主資本等変動計算書

( 2021 年 2 月 21 日から  
2022 年 2 月 20 日まで )

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2021 年 2 月 21 日 残 高	11,614	19,748	143,703	△12,311	162,754
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△2,097		△2,097
親会社株主に帰属する 当期純利益			10,647		10,647
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の 変動額 (純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	—	8,549	△0	8,548
2022 年 2 月 20 日 残 高	11,614	19,748	152,252	△12,312	171,303

	その他の包括利益累計額				非支配株主 持分	純資産合計
	その他有 価証券評 価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調 整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
2021 年 2 月 21 日 残 高	831	1,703	278	2,813	2,048	167,616
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当						△2,097
親会社株主に帰属する 当期純利益						10,647
自己株式の取得						△0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の 変動額 (純額)	△94	1,203	△37	1,071	95	1,167
連結会計年度中の変動額合計	△94	1,203	△37	1,071	95	9,715
2022 年 2 月 20 日 残 高	737	2,907	240	3,884	2,144	177,332

# 連結注記表

## I 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

### 1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社は、下記の16社であります。

(株)エール (株)ファイブスター (株)ベストーネ (株)ナショナルメンテナンス (株)ダイレクト・ショップ 加賀コミュニティプラザ(株) 平和堂(中国)有限公司 舞鶴流通産業(株) 湖南平和物業發展有限公司 (株)ユーイング (株)シー・オー・エム 武生駅北パーキング(株) 福井南部商業開発(株) 富山フューチャー開発(株) ヤナゲン (株)丸善

(2) 非連結子会社は、(株)ベル他3社であります。

(3) 非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純利益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用していない非連結子会社は、(株)ベル他3社であります。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社は、当期純利益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

(1) 連結子会社のうち決算日が連結決算日と異なる子会社は、下記の2社であります。

平和堂(中国)有限公司	12月31日
湖南平和物業發展有限公司	12月31日

(2) 上記2社は、各社の決算日現在の計算書類に基づき連結しております。なお、当該会社の決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### (イ) 有価証券

###### その他有価証券

時価のあるもの …… 連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法  
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、  
売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの …… 移動平均法による原価法

###### (ロ) たな卸資産

###### 通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価  
切下げの方法)

- a 商品及び製品 主として売価還元法
- b 原材料及び貯蔵品 主として最終仕入原価法

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### (イ) 当社及び国内子会社

###### 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く) …………… 定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並び  
に2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定  
額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

- 建物 8～39年
- 構築物 10～20年
- 工具、器具及び備品 3～10年

無形固定資産(リース資産を除く) …………… 定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能  
期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

###### リース資産

###### 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用して  
おります。

###### 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用して  
おります。

なお、リース取引開始日が2009年2月20日以前の所有権移転外ファイ  
ナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた  
会計処理を引き続き採用しております。

長期前払費用 …………… 定額法

(ロ)在外子会社

定額法を採用しております。

(ハ)少額減価償却資産

当社

取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年均等償却する方法を採用しております。

連結子会社

取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、支払時に全額費用処理しております。

(3)重要な引当金の計上基準

(イ)貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ)賞与引当金

従業員に対して支給する賞与にあてるため、支給見込額に基づき計上しております。

(ハ)役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与にあてるため、支給見込額に基づき計上しております。

(ニ)ポイント引当金

ポイントカードにより顧客に付与したポイントの使用に備えるため、当連結会計年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。

(ホ)利息返還損失引当金

将来の利息返還の請求に伴う損失に備えるため、過去の返還実績等を勘案した必要額を計上しております。

(ヘ)閉店損失引当金

店舗閉鎖等の意思決定が行われたため、将来発生が見込まれる損失額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として12年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

③小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、20年間の定額法により償却しております。

(6) その他連結計算書類作成のための重要な事項

消費税等の処理方法…税抜方式によっております。

5. 表示方法の変更に関する注記

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取手数料」については、金額的重要性が高まったため、当連結会計年度より独立掲記しております。

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当連結会計年度の連結計算書類から適用し、会計上の見積りに関する注記を記載しております。

6. 会計上の見積りに関する注記

固定資産の減損損失

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

・有形固定資産	193,067百万円
・無形固定資産	9,649百万円
・長期前払費用(投資その他の資産 その他)	2,311百万円
・減損損失	1,110百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結総資産に占める当社の固定資産の割合が58.4%であり、当社が重要な割合を占めるため、以下に記載する固定資産の減損の算出方法・主要な仮定は当社について記載しております。なお、子会社は当社に準じて固定資産の減損の処理を行っております。

①金額の算出方法

固定資産の減損に係る回収可能性の評価にあたり、他の資産又は資産グループから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位を考慮し、店舗を基本単位としてグルーピングを行っております。店舗以外の賃貸用不動産及び遊休不動産については個別の物件毎にグルーピングをしております。

資産又は資産グループの営業損益が2年連続してマイナスの場合及び経営環境の著しい悪化の場合、固定資産の時価が著しく下落した場合、あるいは閉店・売却・遊休の意思決定をした場合に減損を把握しております。

減損の兆候が把握された店舗については、将来キャッシュ・フローを見積り、割引前将来キャッシュ・フローの合計が当該資産又は資産グループの固定資産の帳簿価額を下回る場合には減損損失を認識しております。

減損損失を認識する場合について、固定資産の帳簿価額が回収可能価額を下回る場合には、回収可能価額まで帳簿価額を減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い金額によっております。正味売却価額は、金額的に重要な固定資産について、不動産鑑定士による不動産鑑定評価額、もしくは路線価を基準に合理的な見積りにより算定しております。また、使用価値は各資産又は資産グループの継続の使用と使用後の構成資産の処分によって見込まれる将来キャッシュ・フローを、借入資本コストと自己資本コストを加重平均した資本コストで現在価値に割り引いて算定しております。

## ②主要な仮定

将来キャッシュ・フローの見積りは、経営会議で承認を得た事業計画に基づく各店舗の将来収益予測に基づいております。各店舗の事業計画の主要な仮定は売上高であります。店舗別に過去実績、店舗年齢、他社及び自社店舗の競争状況の変化見込、その他市場環境の変化等を勘案して売上高の予測をしております。

## (3) 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

事業計画に含まれる売上高・営業収入の実現可能性及び商圈状況の変化による影響を受ける可能性があることから高い不確実性を伴い、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。当該見積り額の前提とした条件や仮定に変化が生じ、将来キャッシュ・フローが減少した場合、減損損失を認識することになる可能性があります。

## II 連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 223,103百万円

### 2. 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関借入に対して、債務保証を行っております。

(株)サニーリーフ

92百万円

### Ⅲ 連結株主資本等変動計算書に関する注記

#### 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計 年度末株式数
発行済株式				
普通株式	58,546,470	—	—	58,546,470
自己株式				
普通株式	6,097,493	263	—	6,097,756

(注) 普通株式の自己株式の増加263株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

#### 2. 配当に関する事項

##### ①配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年 5月13日開催 定時株主総会	普通株式	1,101	21.00	2021年 2月20日	2021年 5月14日
2021年 9月30日開催 取締役会	普通株式	996	19.00	2021年 8月20日	2021年 11月1日

##### ②当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年 5月19日開催 定時株主総会	普通株式	1,206	利益剰余金	23.00	2022年 2月20日	2022年 5月20日

※2022年5月19日開催予定の定時株主総会の決議として、普通株式の配当に関する事項を付議いたします。



## IV 金融商品関係

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、安全性の高い金融資産に限定して資金運用をしており、一方、短期的な運転資金や設備投資計画に照らして必要となる資金は、主として銀行借入により調達しております。投機的な取引は行わない方針です。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客又はクレジット会社の信用リスクに晒されておりますが、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券は、主として業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、四半期毎に時価や発行体の財務状況を把握することにより市場価格の変動リスクの軽減を図っております。

長期貸付金は、主に店舗開設に係る貸付金であり、貸付先の信用リスクに晒されておりますが、当該リスクについては、財政状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

敷金及び保証金は、主に店舗の賃借に係るものであり、貸主の信用リスクに晒されておりますが、当該リスクについては、財政状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

営業債務である支払手形及び買掛金・未払金及び未払費用・未払法人税等・未払消費税等・預り金・商品券は、主として6ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金は、運転資金の調達を目的としたものであります。長期借入金（原則として5年以内）及びリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。受入敷金保証金は、店舗のテナントへの賃貸によるものであります。これらについては、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各部署からの報告に基づき資金担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。このうち一部（長期借入金）については、金利の変動リスクに晒されておりますが、固定金利と変動金利を勘案しリスク軽減を図っております。

#### (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2022年2月20日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。(注)2参照)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	34,876	34,876	—
(2) 受取手形及び売掛金	7,084	7,084	—
(3) 投資有価証券	3,360	3,360	—
(4) 長期貸付金 ※1	460	471	10
(5) 敷金及び保証金	19,156	18,423	△733
資産計	64,937	64,215	△722
(6) 支払手形及び買掛金	30,596	30,596	—
(7) 短期借入金	15,326	15,326	—
(8) リース債務（1年内返済予定含む）	91	91	△0
(9) 未払金及び未払費用	11,234	11,234	—
(10) 未払法人税等	2,430	2,430	—
(11) 未払消費税等	1,667	1,667	—
(12) 預り金	11,609	11,609	—
(13) 商品券	2,651	2,651	—
(14) 長期借入金	14,926	14,919	△6
(15) 受入敷金保証金	8,544	8,021	△523
負債計	99,079	98,549	△530

※1 長期貸付金の連結貸借対照表計上額は貸倒引当金300百万円を控除しております。

### (注) 1 金融商品の時価の算定方法に関する事項

#### 資産

- (1) 現金及び預金 (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

- (4) 長期貸付金  
これらの時価については、回収可能性を反映した元利金の受取見込額を残存期間に対応する国債の利回りに基づいた利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (5) 敷金及び保証金  
これらの時価については、返還時期を見積り、将来キャッシュ・フローを国債利回りに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

#### 負債

- (6) 支払手形及び買掛金 (7) 短期借入金  
(9) 未払金及び未払費用 (10) 未払法人税等 (11) 未払消費税等  
(12) 預り金 (13) 商品券  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (8) リース債務  
これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (14) 長期借入金  
変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、固定金利によるものは、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値によっております。
- (15) 受入敷金保証金  
これらの時価については、返還時期を見積り、将来キャッシュ・フローを国債利回りに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

#### (注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	390

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

#### (注) 3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	34,876	—	—	—
受取手形及び売掛金	7,084	—	—	—
敷金及び保証金	339	1,549	1,459	1,141
合 計	42,299	1,549	1,459	1,141

## (注) 4 長期借入金、リース債務の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
	長期借入金	5,926	4,945	8,980	1,000	—
リース債務	44	27	10	9	0	—
合計	5,971	4,972	8,990	1,009	0	—

## V 賃貸等不動産関係

## 1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の子会社では、滋賀県その他の地域において、主に店舗用の建物を有しており、一部テナントに賃貸しております。

2022年2月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は7,378百万円(賃貸収入は営業収入、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

## 2. 賃貸等不動産の時価等に関する事項

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額			当連結会計年度末の時価
当連結会計 年度期首残高	当連結会計 年度増減高	当連結会計 年度末残高	
32,163	△4,365	27,798	22,547

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
- 2 当期増減額のうち、主な増加額は店舗改装(625百万円)であり、主な減少額は減価償却費(1,054百万円)であります。
- 3 当連結会計年度末の時価は、不動産鑑定士による鑑定及び「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額であります。

## VI 1株当たり情報に関する注記

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 3,340円18銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 203円00銭   |

(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てております。

# 株主資本等変動計算書

(2021年2月21日から)  
(2022年2月20日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本							
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金			利益 剰余 金計
		資本 準備金	資本 剰余金 合計		その他利益剰余金			
					固定資産 圧縮 積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	
2021年2月21日残高	11,614	19,017	19,017	2,168	985	112,350	13,720	129,224
事業年度中の変動額								
剰余金の配当							△2,097	△2,097
当期純利益							9,965	9,965
自己株式の取得								
圧縮積立金の取崩					△66		66	—
別途積立金の積立						7,500	△7,500	—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	△66	7,500	434	7,867
2022年2月20日残高	11,614	19,017	19,017	2,168	919	119,850	14,154	137,092

	株 主 資 本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
2021年2月21日残高	△12,311	147,544	830	830	148,374
事業年度中の変動額					
剰余金の配当		△2,097			△2,097
当期純利益		9,965			9,965
自己株式の取得	△0	△0			△0
圧縮積立金の取崩		—			—
別途積立金の積立		—			—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
事業年度中の変動額合計	△0	7,867	△94	△94	7,772
2022年2月20日残高	△12,312	155,411	736	736	156,147

# 個別注記表

## I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの …………… 事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法  
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの …………… 移動平均法に基づく原価法

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

商品 …………… 売価還元法

ただし生鮮食料品は最終仕入原価法

貯蔵品 …………… 最終仕入原価法

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)……………定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 …………… 8～39年

構築物 …………… 10～20年

工具、器具及び備品 …………… 3～10年

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)……………定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)による定額法を採用しております。

#### (3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が2009年2月20日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

- (4) 長期前払費用……………定額法
- (5) 少額減価償却資産……………取得価額が10万円以上20万円未満の資産については3年均等償却する方法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与にあてるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与にあてるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (4) ポイント引当金

ポイントカードにより顧客に付与したポイントの使用に備えるため、当事業年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。

#### (5) 利息返還損失引当金

将来の利息返還の請求に伴う損失に備えるため、過去の返還実績等を勘案した必要額を計上しております。

#### (6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)による定額法により按分した額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。

(7) 閉店損失引当金

店舗閉鎖等の意思決定が行われたため、将来発生が見込まれる損失額を計上しております。

4. のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、20年間の定額法により償却しております。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の処理方法

税抜方式によっております。

6. 表示方法の変更に関する注記

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取手数料」については、金額的重要性が高まったため、当事業年度より独立掲記しております。

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度の計算書類から適用し、会計上の見積りに関する注記を記載しております。



## 7. 会計上の見積りに関する注記

### 固定資産の減損損失

#### (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

・有形固定資産	164,862百万円
・無形固定資産	7,801百万円
・長期前払費用	2,314百万円
・減損損失	422百万円

#### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結注記表 6. 会計上の見積りに関する注記 に記載しております。

#### (3) 翌事業年度の計算書類に与える影響

事業計画に含まれる売上高の実現可能性及び店舗ごとの商圈状況の変化による影響を受ける可能性があることから高い不確実性を伴い、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。当該見積り額の前提とした条件や仮定に変化が生じ、将来キャッシュ・フローが減少した場合、減損損失を認識することになる可能性があります。

## II 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額	180,960百万円
2. 保証債務	
銀行債務に対する保証	1,401百万円
3. 関係会社に対する金銭債権	
短期金銭債権	4,163百万円
長期金銭債権	6,505百万円
4. 関係会社に対する金銭債務	
短期金銭債務	6,857百万円
長期金銭債務	1,931百万円

## III 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引

売上高	8,741百万円
不動産賃貸収入及びその他の営業収益	2,884百万円
仕入高	31,072百万円
販売費及び一般管理費	6,404百万円
営業取引以外の取引高	481百万円

## IV 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当事業年度 期首株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
自己株式				
普通株式	6,097,493	263	—	6,097,756
合計	6,097,493	263	—	6,097,756

(注) 普通株式の自己株式の増加263株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

## V 税効果会計に関する注記

### 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
賞与引当金	352百万円
商品券販売	66百万円
未払事業税等	153百万円
ポイント引当金	1,336百万円
貸倒引当金	259百万円
退職給付引当金	2,352百万円
投資有価証券評価損	95百万円
減損会計適用分	2,793百万円
役員退職慰労金未払額	56百万円
減価償却超過	3百万円
資産除去債務	945百万円
その他	362百万円
繰延税金資産小計	8,778百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△2,590百万円
繰延税金資産合計	6,187百万円
繰延税金負債	
固定資産圧縮積立金	△402百万円
有形固定資産（資産除去債務等）	△1,297百万円
その他有価証券評価差額	△322百万円
繰延税金負債合計	△2,022百万円
繰延税金資産の純額	4,164百万円

## VI リースにより使用する固定資産に関する注記

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

1. 当該事業年度の末日におけるリース物件の取得価額相当額	98百万円
2. 当該事業年度の末日におけるリース物件の減価償却累計額相当額	95百万円
3. 当該事業年度の末日におけるリース物件の減損損失累計額相当額	一百万円
4. 当該事業年度の末日におけるリース物件の未経過リース料相当額	2百万円

## Ⅶ 関連当事者との取引に関する注記

### (1) 当社の子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
子会社	株式会社ベストオーネ	滋賀県犬上郡多賀町	50	小売周辺事業	(所有) 直接100.0 (被所有) 直接— 間接—	商品仕入 不動産賃貸 役員の兼任	仕入高	30,863	その他(流動負債)	3,287
会社	富山フューチャー開発株式会社	富山県富山市	600	小売周辺事業	(所有) 直接66.8 (被所有) 直接— 間接—	不動産賃貸 借資金の援助 役員の兼任	—	—	貸付金	6,930

- (注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
取引については、市場価格を勘案して決定しております。
2. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

### (2) 役員及び主要株主等

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社(当該会社を含む)	株式会社ピース&グリーン	滋賀県彦根市	5	不動産賃貸及び管理等	(所有) — (被所有) 直接3.7 間接 —	不動産賃貸 借人材派遣 役員の兼任	賃借料等	221	差入敷金	346
							人材派遣等	295	未払費用	28
							給与の立替払い	275	未収入金	25

- (注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
取引については、市場価格を勘案して決定しております。
2. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
3. 株式会社ピース&グリーンは、当社取締役専務執行役員夏原行平及びその近親者が議決権の過半数を保有しております。

## Ⅷ 1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額 2,977円15銭
2. 1株当たり当期純利益 190円00銭

(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てております。